

友と囲む食卓 0022+ …よもやま話

2年前に手配した家族でのイタリアの旅は航空会社からキャンセルされこの先行ける機会があるだろうかという思いの中
今までに長く連載された新聞や日本イタリア協会の会報の中では触れなかった横道の話を書いてみようと思います

イタリア修行時代に何度かスイスに行って山をスケッチしたりベルンの美術館で飽きるほどパウルクレーの絵を覗き込んで模写したりローマから北へ向かう前にはナポリやソレント、カプリ島(青の洞窟)パエストゥムの神殿等に足を運び 一応の区切りをつけての帰国直前にはスイス、ドイツ、フランス、イギリス他寒さにふるえながらスケッチ旅行したと伝えればかなりリッチな感じを受けるかもしれませんが
イタリアへ渡った時の所持金は50万円 7ヶ月ほどは部屋代も払って一年半暮らしていました 銀行に口座があるわけもなくホテル学校に通っていた時も家庭滞在をしていた時もいくつかのレストランで働いていましたが紹介してくれた人がホテル学校の教授であり 神父さんとその家族(警察官も)であったりと正統な手続きを経っていたので労働許可書のない僕は賃金はもらうことなく勉強目的ということでキッチンにいました まかないは食べていましたからね 知人のいない所へ出向く時の泊りはユースホテル
26歳以下ならヨーロッパ中の列車に2等席1ヶ月乗り放題の切符が買えたのでユースの泊り代も惜しい時には夜行で遠くに行ったりして寝ていました
当時の列車はハリーポッターにでてくるような3人が向かい合わせの6人がけの個室に分かれており 運良く3人分を独占できたとしてもだんだん横になるのも苦しくなってきた座禅のように休んでいました 思い返せば今では行くに行けない宝物のような場所と体験で もっともっとと思いつつも
イタリア人ファミリーもあきれほどに動きまわっていたようです あなたは森の中の小鳥のようねイタリアの中を自由に飛び回っているわと言われました
そもそもイタリア生活は最初から特殊な環境でした ホテル学校の新学期まで住み込むことになったのは学校の教授が経営しているしっかりとしたセキュリティの2階建ての上の階の高級なレストラン....ところがなんと下はディスコテッカ ディナーの営業が終わっても下からドンドンと響く音で寝られるわけありません 住み込みの友と軽い夜食を作ったりカクテルを試したり時には下の店に誘われて踊ったこともあります
周りではあやしげな手巻きタバコが回されましたが葉の中心に粉やらオイルやらを入れて巻くのでタバコを吸わない僕はいよいよと断っていてお前は

まじめだなあと言われたものです 皆30分ほどはぐったりとしていました
ある夜査察が入り2階にも上がってきて何も分からないままパスポートを
押収されましたが 翌日にはオーナーの口八丁で(一応教授なので)
無事に戻ってきました

羽目をはずしたような生活のようですが深夜には下からの音は無視して
教授から借りた料理本を訳して過ごすことも多く 店はトリュフや
ポルチーニ他高級食材をケースで仕入れたりロブスターを生きたまま並べ
長い角のカジキマグロをポーンと置くような客層の良い所でした
ある晩高位の神父さん達の貸し切りとなり下の庭から店への通路の両側に
キャンドルが 灯され給仕人も正装で集められて…そんなことより
カラビニエーレ(特殊警察)が銃をかかえて厨房にはりついていきます
怖いもの知らずに話しかけても一言も返ってきません 新前の僕は
カルパッチョを任されてもう一人はローストビーフのパイ包みを その他の
料理は覚えていませんが日本人の丁寧な仕事が喜ばれたようで
打ち上げの時のオーナーは満面の笑みでした

もう少し変な話を続けましょう イタリアはヨーロッパの中では気候にも食材にも
恵まれた国なので特に大都市のまわりにはジプシーと言えば分かり易い
移民者が潜んでいました ある日友人にローマのどろぼう市場に行こうと
誘われてトラスターベレにある青空市場に入りましたがけっこうな人出で
ごった返した中を歩いているといつのまにか7~8人の子供に囲まれています
40年ほど前にと時々報道されて今はどうか知りませんが皆腕をダンボールで
隠して1人をとりまき全身のポケットに手を入れるのです 僕はヨーロッパでは
財布は持たずに裸銭をジープの前ポケットに入れていましたしそこに両手を入
れていけば平気なので好きにさわらせていました 面白かったので次の市
にはカメラを持っていき囲まれるのを楽しみにかまえていたのですが大人の
目線ではいきなり近づいてくる連中には気づきにくく同じくり返しでした
何も取れないのでチクショー.バカヤロウと言いながら去った彼らを
撮ろうと振り向いたらもう影もありません 統制する親方がいるのでしょね
たいていの友人知人達は何らかの被害に合っています スリか置き引き
がほとんどで移民に限らず暇なボーヤ達が遊びでやることもあります
がやられた方はたまりません 幸いギリギリで逃れていました 時には少々
ぶっそうなこともありました 友人がローマのテルミニ(終着駅)の暗がり
で銃をつきつけられて金を取られたと話すのです 聞いた僕らはとにかく
ケガもなく無事で帰って来れたんだからと大喜びだったのですが本人は
でもくやしいと言っていました 他にもジェノバへ夜行で行った時には
車内で殺人事件が起こっていたりボローニャでは若きマフィアのドンが逮捕
されたりと主要駅の通路では大型犬をつれた特殊警察を相当数見かけました

が詳しいことを知ったのは知人の家に着いてからです
書いてくるときりがありませんね 毎日がゆったりとわくわくする刺激の中でも
イタリア人はここまで自然に手をさしのべてくれるのかと思ったことは数えきれ
ません 週末には家族で教会へ行って聖書から導かれる倫理を考える人々
なのでちょっと道に困っているとガキンチョ達がどうしたのと話しかけてくれます
し一言一言に笑いを含んでいます 後にはヴェネチアの北の食の町トレヴィゾ
で同じ名字が集まると120人というファミリーの家長の家に住んでいました
公民館や屋外での大パーティー 結婚のお祝い等はよくもこれだけの人が
集まって長い時間楽しめるものだと料理の内容も含めて堅気のゴットファザー
と言える場面です ただ普通の生活はとても質素で早朝から畑仕事 昼には
少しの肉と野菜料理にワイン1~2杯 夕方には野菜を市場に持ってゆき
昼の残りやサラダで夕食をすませほとんど飲みませんでした よく分かったのは
日本に比べればけっこうな頻度で親族が集まり近所の人達とも食事を
とりながらのおしゃべりが一番のごちそうということです
…まだ色々ありすぎるけどよもやま話いったんおしまい…